

令和4年10月20日付【水道産業新聞】

災害時支援者育成講習会開く

＜熊本市とJSが基調講演＞

熊本市とJSが基調講演

水コン協 災害時支援者育成講習会開く

全国上下水道コンサルタント協会はこのほど、「災害時支援者育成講習会」を会場とウェブの併用で開いた。会員をはじめ地方公共団体の下水道担当職員など約320人が受講。下水道施設の被災現場で復旧・復興に携

わった協会員の講師による災害復旧や災害査定の実務についての説明と、



豪雨被災地の支援経験が語られた講習会

熊本市上下水道局、日本下水道事業団（JS）による基調講演が行われた。

水コン協では、継続的に災害復旧業務に関する知識を有する災害時支援者を養成していく必要性

から、2019年度以降、講習会を毎年開催している。協会員は、震災や豪雨など全国各地で発生した大規模災害に際して災害査定資料の作成業務などを委託し、速や

かな施設復旧に向けた支援を行ってきた。また、これまでの支援経験を踏まえ、「災害時の活動に関する要領」や「災害時支援マニュアル（下水道版）」を発刊している。

実務についての説明は、「災害復旧とは」「管路施設の災害復旧」「処理場・ポンプ場の災害復旧」「災害復旧支援パートナーと契約」の4部に分けて行われた。

基調講演では、熊本市上下水道局の藤原基氏が、2020年7月の豪雨で被害を受けた大宮市における下水道管きよの調査支援の経験から、調査開始前に調査範囲を的確に絞ることが必要。今回は浸水推定図から作業

範囲を的確に抽出できた」「現地では様々なマンホール蓋の開閉を行うので、定期的にマンホール蓋の開閉を練習する必要がある」など、作業時間の大幅な短縮につながるポイントをアドバイスした。

また、同局の末永剛氏はBCP「図上・現地」訓練の取り組みを紹介。今年度は、浸水被害を想定し、室内班と現地班に分かれ、タブレットやウェブ会議システムで情報共有を図り、▽水防体制からBCP体制への移行▽被災時の初動対応・安否確認▽被災後の現場対応を訓練した。末永氏は、「今後も、訓練と調整を繰り返しながら下

水道BCPを点検・改善し、熊本地震と豪雨被災地の支援経験を次の世代に継承したい」と話した。

JSの引野政弘氏は、2019年の東日本台風で被災した千曲川流域下水道下流処理区終末処理場（クリーンピア千曲）の復旧支援の経緯を語った。千曲川の決壊により場内全体が水没し、処理機能が停止。沈砂池ポンプ棟の排水作業や、高濃度の硫化水素ガスへの対応、場内放流ポンプの移設による仮設揚水機能の確保など、初動から多くの困難を乗り越えながら、段階的に復旧を進めた。

調整を繰り返しながら下